

産婦人科

基本方針

後期臨床研修は医師の将来を決定する重要な時期であるとともに、自分が臨床、研究、教育に向いているかを選択する時期でもある。そのため本プログラムでは、けいゆう病院独自の臨床を中心とした研修を行いつつ、慶應義塾大学医学部産婦人科学教室後期臨床研修プログラムとも連動することを基本とする。

到達目標

- 1 ヒトを思いやる人間性を身につける。
- 2 日本産科婦人科学会の定める産婦人科専門医を取得するのに必要な臨床知識、技術を身につける。
- 3 本研修修了後、周産期、腫瘍、生殖医療、内視鏡などの専門医 (subspecialty) の資格取得を可能にする基本的な知識、技術を修得する。
- 4 日常の臨床から、研究に結びつくアイデアの創造力を養う。
- 5 後輩を指導する実力を養う。

指導責任者

甘 彰華（副院長） 日本産科婦人科学会専門医

中野 眞佐男（産婦人科部長） 日本産科婦人科学会専門医

教育課程

産婦人科では初期臨床研修プログラム修了後の訓練期間を3年と定め、以下のスケジュールで研修を行う。

第1学年・第2学年

産科・婦人科をけいゆう病院にて担当指導医の下、一般臨床を中心に研修。

第3学年

日本産科婦人科学会の定める産婦人科専門医取得を目標にすべての指導医の下で臨床研修を行う。

また、初期臨床研修医・医学部学生の指導を通して教育の資質を養うと共に、学会発表を行って、医学者としての研究の修練を行う。希望があれば、大学または他の医療施設における高度先進医療にも出張可能とし、質の高い臨床を学ぶ。

教育内容

1 第1学年

正常妊娠・分娩の管理、産科婦人科手術の助手と術前術後管理、悪性腫瘍の化学療法などを習得する。指導医と一緒に主治医として患者を受け持つ。

2 第2学年

主治医として産婦人科一般外来、基本的な手術の術者、その他の手術の第1助手を勤める。早期の subspecialty 取得を希望するものに対しては優先的に機会を与える。

3 第3学年

臨床の経験をさらに積み、日本産科婦人科学会の定める産婦人科専門医取得を目指す。

研修修了後の選択肢

慶應義塾大学医学部産婦人科学教室の定めたコースに応募できる。

また、けいゆう病院の定める採用試験に合格した場合は、けいゆう病院産婦人科の医員として採用する。